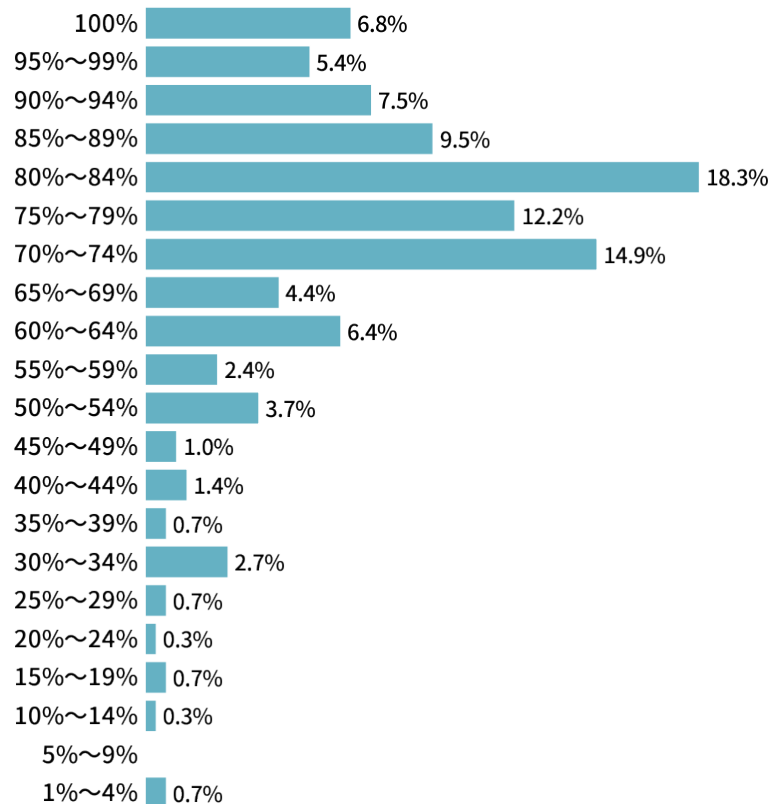


プレゼンティーイズムによる損失額の推計

心身の不調による従業員のパフォーマンス低下によって、企業が被る損失額を「給与×労働生産性の低下率×従業員数」により推計することが可能です。

心身の不調がないときに発揮できる仕事の出来を100%として過去4週間の自身の仕事を評価してください



平均値を算出*



労働生産性の低下率
(プレゼンティーイズム)

-25%

参考値**

プレゼンティーイズムの平均値-23%

給与

360万円

一人あたり
損失
90万円

×

従業員数
714人

=

貴社損失額
64,260万円

プレゼンティーイズムコスト (推計)

※貴社回答結果に基づき推計

平均給与に関して、貴社からのご指定がない場合は360万円と仮定

*平均値は、以下の通り、回答の選択肢を数値に置き換えて算出します。

例) 選択肢「100%」→ 100% (プレゼンティーイズムは0%)

選択肢「95%~99%」→ 97% (プレゼンティーイズムは-3%)

**アクサ生命 2022年の健康習慣アンケートの結果より (回答者数: 約15万人)

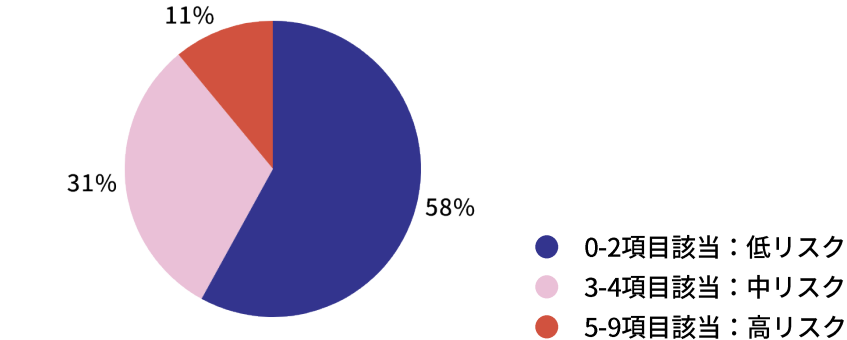
プレゼンティーイズムと健康リスクの関連

「生活習慣リスク」「心理的リスク」に関する9つの項目で、従業員の健康リスクを把握しました。
 該当する健康リスクの数（図表1）に応じて、従業員を3グループに分類し（図表2）、各グループの労働生産性の低下率を算出しました。（図表3）
 企業の生産性の向上のためには、高リスク者を減らすことが重要であると分かります。

（図表1）

	健康リスクの評価項目	従業員の リスク該当率の割合
生活習慣 リスク	①喫煙習慣あり	7%
	②過度な飲酒習慣あり	8%
	③運動習慣なし	77%
	④睡眠が不十分	40%
心理的 リスク	⑤不定愁訴あり	28%
	⑥主観的健康感が悪い	11%
	⑦高ストレス	28%
	⑧仕事満足度が低い	27%
	⑨家庭満足度が低い	15%

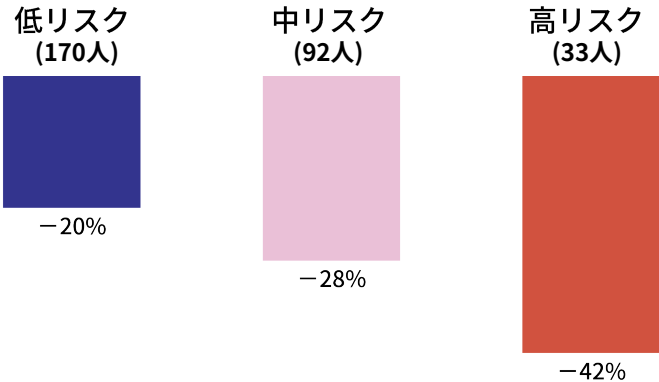
（図表2）



※低リスクの従業員が50%以上であることが望ましいとされます。

各リスクレベルのプレゼンティーイズムの
 平均値を比較します。

（図表3） 労働生産性の低下率
 プレゼンティーイズムの平均値（%）



*上記は、東京大学
 古井・村松・井出「中小企業における労働生産性の損失とその影響要因」日本労働研究雑誌
 平成30年6月号と同じ手法により算出しています。